



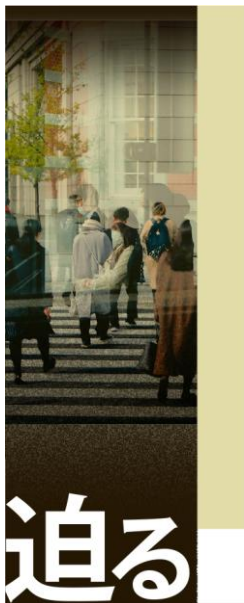
この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

10月12日号（283号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

脱サラで挑む山岳スキー 目指す五輪代表

12日(日)=オピニオン面



来年2月に開催されるミラノ・コルティナ冬季五輪に、山岳スキー（スキーマ）という競技が追加されました。スキーを履いて（時には担いで）山の斜面を駆け上がったたり降りたりしてタイムを競います。この競技で五輪出場を目指しているのが、上田絢加選手（32）＝写真Ⅱです。大学卒業後、サントロリーに入社し社会人としてキャリアを積んでいましたが、ひよんなことで出会ったスキーマが五輪正式種目に決まります。スキーマの競技人口は欧州では20万人もいますが、日本ではまだ200人程度。「五輪に出たい」と一念発起して脱サラ、さらに研さんを積み、もう少しで五輪切符に手が届きそうなどころまできました。彼女の挑戦に迫ります。

多様化する ハラスメント

12日(日)=総合面

セクハラやパワハラ、モラハラなど、人々がハラスメント（嫌がらせ）と感じる行為を指す単語は、時代の変化を反映するように多様化しました。民間の調査では、ハラスメントかどうか線引きが難しい「グレーゾーン」の言動が職場に広がっている実態も明らかになっています。ハラスメントの歴史にも触れながら、現状と課題を解説します。



ハラスメント
の主な種類

モラハラ

モラルハラスメント

無視する、暴言を浴びせる、ばかにする、不機嫌そうに振る舞うなどのモラル（道徳）に反する言動で嫌がらせをする



論点 関西万博 どんな意義？

15日(水)＝オピニオン面

165の国・地域・国際機関が参加した大阪・関西万博Ⅱ写真Ⅱが13日、閉幕します。持続可能な未来の構築に向けて最先端技術やアイデアが紹介され、会期終盤には来場者も増加しました。人・モノ・カネを大量に投じた国家的イベントにどのような意義、課題があつたのでしょうか。そして、将来に何を残していくのでしょうか。

特集ワイド

ここがまずいよ高市さん

14日(火)=タ刊2面

女性で初めての自民党総裁、高市早苗さんⅡ写真Ⅱは、この後の臨時国会で指名されれば、初の女性首相となります。でも世の中、歓迎ムードばかりではありません。ここに至るまでの言動や政治信条などから、高市さんを警戒したり、批判したりする人も少なくないのです。高市さんのまずいところとは何なのか？ 経済学者の金子勝さんと作家の雨宮処凛さんがそれぞれ語ります。

